

多門院地区の世代を超えた連携と 古文書を活かした取組

多門院長生会 会長
新谷 一幸

はじめに

多門院地区の世代を超えた取り組みについては、すでに昨年度刊行された『舞鶴・京丹後地域の文化遺産』14（京都府立大学歴史学科、2018年）に、「世代を超えた連携と「多門院地区歴史探訪」への取組」「多門院歴史探訪」において、詳しく述べている。ここでは、その概略と、その後の古文書を活かした取組について述べていきたい。

多門院とは

地理的には、祖母谷川の源流に近い位置にあり、京街道や若狭道等の交わる三国岳の8合目あたり、胡麻峠の舞鶴側に降りたところである。ここは、古くから「京文化」や「若狭・小浜」等の文化が早く入り、仏像等も平安後期の「毘沙門天立像（国重要文化財）」や「延命地藏半跏像（市指定文化財）」、南北朝時代の黒部区管理の「毘沙門天立像（市指定文化財）」、室町時代の自然石に刻まれた「大乘妙典石板」等多く存在する。現在、大字多門院のなかに、小字集落荒倉・多門・材木・黒部がある。



写真1 稲の虫送り



写真2 桜や紅葉の植樹祭

子供会との合同行事での連携

1. 「稲の虫送り」

平成 25 年（2013）に 60 年ぶりに多門院長生会が主体となり復活させ、現在も継続中、毎年 7 月第 1 土曜日に開催する。

2. 「桜や紅葉の植樹祭」

平成 24 年から多門院地区の中央部にあり、丹後風土記残欠等に出てくる「倉部山＝現在ハシキ林」を、地区の公園化と車で早期避難場所として整備する計画の一環として、子供会と合同で毎年 12 月初旬に植樹する。

3. 「多門院地区歴史探訪」ウォーキング等の開催

地区内の歴史的遺産や仏像、狛犬等の調査、伝説や云われを子供達やその父兄（地区外を含む）と一緒に訪ね歩き、地区の歴史を後世に伝えたいという思いから企画した。地区外の各種団体との連携もし、幅広く多門院の事を知ってもらうのが目的である。

京都府立大学の「多門院区所有古文書調査」に同席して

平成 28 年京都府立大学の東昇准教授に、地区にあった木箱の中の古文書調査を依頼した。2 年間の調査で、江戸後期から明治中期の 280 点の目録が完成した。古文書は、アブラギリ栽培や村山の権利争いの裁判記録等があった。平成 29 年 11 月 23 日には、多門院公民館で「多門院古文書調査報告会」があり、多くの区民や地区外の人が、その成果を熱心に聞き入った。

現在は、調査資料の中の「明治 5 年調、戸主一覧表」を基に、地区内の「屋号」の調査をしている。古い「過去帳」等は、全て「屋号」で書いてあり、若い人や住職でさえ、どこの家の「屋号」か分からない。このままでは「屋号」が、全く分らなくなるので、今のうちに調査完了しなければならないと考えている。

おわりに

このように「京都府立大学の古文書調査」を契機に、少しずつ多門院の江戸後期から明治にかけての生活状態や村の状況等が分って来た。これらの事を参考に子供会やほかの団体等と連携し合って、今後とも「村おこし」に励みたいと思っており、このような取り組みを続けて行くためには「担い手」の養成も急務と考えている。



写真 3 「多門院地区歴史探訪」ウォーキング



写真 4 多門院古文書調査報告会

表紙の解説

	1	2	3
5		4	
(裏)		(表)	

- 1 「舞鶴の歴史アラカルト」パンフレット
- 2 文書蔵出し調査風景 東昇撮影
- 3 舞鶴地方史研究会との共同調査 東昇撮影
- 4 舞鶴クレインブリッジ 松岡秀雄氏撮影
- 5 東舞鶴高校での授業風景 廣瀬邦彦氏撮影

京都府立大学文化遺産叢書 (2008 ～)

- 1 南山城・宇治地域を中心とする歴史遺産・文化的景観の研究
- 2 近世伊予越智島地域における流動する人・物・情報
—御用日記・諸願控の総合的研究—
- 3 八幡地域の古文書と石清水八幡宮の絵図—地域文化遺産の情報化—
- 4 八幡地域の古文書・石造物・景観—地域文化遺産の情報化—
- 5 丹後・宮津の街道と信仰
- 6 城陽市域の地域文化遺産—神社・街道の文化遺産と景観—
- 7 熊野の信仰と景観—宗教遺産学の試み—
- 8 石見銀山域の歴史と景観—世界遺産と地域遺産—
- 9 和束地域の歴史と文化遺産
- 10 八幡・南山城地域の寺院資料と信仰—京都府歴史資料調査—
- 11 舞鶴の文化遺産と活用
- 12 「丹後の海」の歴史と文化
- 13 古代寺院の儀礼・経営に関する分野横断的研究
- 14 舞鶴・京丹後地域の文化遺産
- 15 沖縄の宗教・葬送儀礼・戦没者慰霊



京都府立大学文化遺産叢書 第16集
舞鶴の地域連携と世代間交流
井上奥本家文書調査報告

編集 東 昇
発行 京都府立大学文学部歴史学科
〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5
発行日 2019年3月30日
印刷